

たちばなふみ市議 2月議会一般質問⑤ 子育て日本一へ保育士ふやして

2月議会、たちばなふみ市議は4項目質問しました。
3、4項目目について、まとめて報告します。

能登半島地震をうけて、保育の現場では「元日に地震があったが、これが平日だったら子どもたちをつれて避難できただろうか」「子どもたちの命と安全をまもれたか自信がない」「今の配置基準では無理」と危機感を募らせています。国は保育所の職員配置基準を今年76年ぶりに見直し「1歳児及び4・5歳児の職員配置基準を1歳児は6人に、対し1人から、5人に1人、4・5歳児は30人に1人から、

育士の確保。実際の就業人数、休憩時間がとれているか調査を、③発達に心配のある子どもがふえている。丁寧に見守れる職員確保のためにも、エスコ等の活用について保護者に理解を求める活動を強めるよう要望しました。
青木佳子子ども子育て部長は①国の責任で実施されるよう動向を注視する、②休憩時間は就業規則で確認している、ICT活用で働きやすい環境整備に努める、③エスコの活用、早期の相談体制充実に努めるなどと回答しました。

年を重ねるほど楽しい松江 加齢性難聴に補聴器助成を

能登半島地震の際、島根でも津波注意報が発表された。松江市は屋外スピーカーや屋内告知端末「おしらせ君」で放送したが、高齢の方からは聞こえなかったという声が寄せられた。高齢者の37・4%に中等度以上の難聴があると東京都健康長寿医療センター

研究所が研究報告している。厚生労働省は2021年「難聴高齢者の社会参加等に向けた適切な補聴器利用とその効果に関する研究」を公表しています。補聴器助成制度をはじめ自治体はここ2年で36から238自治体に広がっています。

松原正健康福祉部長は「聴力機能の低下を原因とする社会参加の減少が高齢者のフレイル、介護状態の進行に影響があることは認識している。新たな知見や他自治体の事例を参考に検討する」等と答弁しました。



たちばなふみ市議会議員

たちばな市議は、「総合計画にある『年を重ねるほど松江は楽しい』という将来の姿に向かって、加齢性難聴の支援・補聴器購入の補助と、聴力検査を健診項目に取り入れることが必要」と訴えました。



戦争する国づくり許すな 憲法9条は世界の宝 Make Peaceの集い 開催

憲法記念日の5月3日、島根県民会館で、20回目を迎える「憲法9条は世界の宝、メイクピースの集い」が開かれました。250名が参加し、講演会や、市民パレードが行われました。

この集いは憲法改悪に反対する市民団体や個人で組織された「憲法改悪反対！5・3実行委員会」(代表岡崎由美子弁護士)が主催しています。代表の岡崎弁護士は「憲法は平和的生存権をうたっている。戦争する国づくりを進める政治に嘆き悲しむわけにはいかない。世界の平和の流れと共に声を上げよう」と挨拶。

第一回の集いの実行委員長を務めた、原田豊己神父(カトリック教会)が、「人権・

原田氏は、1947年8月、当時の文部省が発行し、新しい憲法を解説した中学2年生の教科書「あたらしい憲法のはなし」を紹介。戦争放棄について『けつして心細くはない。正しいことを、他の国より先にいったらいい。世の中で正しいことくらい強いものはない』などと書かれていたことを紹介し、戦前に比較して、現憲法下では「77年間、戦争をしなかつたことは歴史的な成果」と強調しました。



しかし1950年の朝鮮戦争の勃発後に、警察予備隊、保安隊、自衛隊と日本の再軍備が急速に進んでいったと年表をもとに詳しく解説。特に、2015年の集団的自衛権の行使容認や、防衛費の増強による大軍拡、敵基地攻撃能力の保有など、戦争できる国づくりに突き進んでいることを強く批判しました。そして、「いま改めて、この憲法の話を読み起こし、主権者として選挙権を行使して次の世代に憲法をつなげていこう」と訴えました。

講演後、憲法をいかして平和のために連帯すると決意を込めた集会アピールを採択しました。今年初め、首相、島根県選出の国会議員、市町村議会などにこのアピール文を提出するとしています。集会終了後参加者は、横断幕やプラカードを掲げ、「憲法9条は世界の宝」「大軍拡反対」等声をあげながらパレードを行い、市民に憲法守ろうとアピールしました。



講演する原田氏と会場の様子